

ポタルの泉が拡大へ

水戸・見川の生息域

ワークmito」と企業が手を結び、10年間で4倍となる計4畝に広げる計画。将来的には、千を超える幻想的な光が夜空に舞う空間づくりを目指していく。

水戸市見川町の県有地に整備された「ポタルの泉」を拡大する新たなプロジェクトが動き出した。これまで同所でポタル生息環境の整備を手掛けてきた「ポタルネット



雑草やごみの除去活動を行うポタルネットワークmitoのメンバー＝水戸市見川町

ポタルネットワークmitoは、水戸英宏中学校の児童生徒と逆川こどもエコクラブ、常磐大、水戸市公園協会、渡里湧水群を活動かす会の5団体で構成。2015年以降、雑草や木々で荒地地となっていた同校隣接の県有地に、ポタルが確認した。これらの成果を

生息できる環境づくりを進めてきた。16年には同所を「英宏の泉」と名付け、約1畝分に歩道や水路、あぜなどを整備し、幼虫や卵を放流。翌17年にはゲンジボタル108匹、ヘイケポタル24匹を

敷地4倍 地元団体と企業連携

東京で開かれた「低炭素杯2017」で披露したところ、環境大臣賞金賞も受賞している。

12都道府県の17カ所で森林保全を進めるなど、環境をテーマに社会貢献活動を行う「セブーンイレブン記念財団」(東京)が、この取り組みに着目。今年6月には両者で森林整備に関する協定書を結び、「茨城セブンの森」として英宏の泉西側に同様の環境を広げていく。

今月21日には、同所でポタルネットワークmitoのメンバーら約130人が雑草やごみの除去活動を実施。今後、27年までに約3畝を段階的に整備する。整備活動にはポタルネットワークmitoのメンバーのほか、県内に630店舗(3月末現在)展開するセブーンイレブンの各店長ら100人超が参加する予定だ。除草活動に参加した英宏小6年の小島大知君は「これまで地道に行ってきた活動が認められ、さらに広がることになりうれしい」と、ポタルの生息地拡大に期待を寄せた。

(前島智仁)